

漫画の昔話

私が漫画を始めた当時は、戦後20年代でその頃は、横山隆一先生ひきいる漫画集団、小嶋功先生など若者集団の独立漫画派の戦国時代でした。又原稿料など、結構良くて、最高は横山泰造先生の朝日新聞の一コマ一萬円で、次は一ページ七千円クラス。次は五千円クラス、最安値は三百円でした。

当時は、中卒四千元、高卒七千元、大学卒一萬円の時代でした。私たち三千元



幻想 良かったネエ

「サアー行こうぜ……でした。当時新宿は、歌声喫茶及びゲイバーなる店が多く有りましたが、若い漫画屋に金がないので、週刊誌のライターなんてことで行きよりました。その頃は、テレビでも（丸山明宏）のメケ・

から五千円くらい……。毎年東京で漫画大学（実業日本社）主催で、日本中のアマチュア漫画屋が二百人位集まったものです。そんな事で、日本中に漫遊出来まして、東京まで漫画売り込みに行くにも、友達の家

に泊りながら、一週間もかけて東京に行くこともありまして。又、先生方に原稿を見てもらうことも多々有り小嶋功先生宅など、いつもお伺いしたものです。先生の行き先は、若者の町新宿でした。小嶋さんはいつ

メケとかでシスターボーイと言っていました。男でも本当に美しかった……女より……。

当時は、一流新聞社には新人漫画のページ有り。又文芸春秋には、漫画読本、アサヒグラフ、読売グラフ、週刊サンケイ、その他。週刊、月刊ぞくぞくでした。又地方の新聞社も日本中で漫画を出していました。私と古谷栄幸（南国市植田）はアマ中の唯一の百姓漫画屋でした。香川県多度津に氏部至強と言う商船大

卒で、作詞家（あの有名な）星野哲郎と同期の四国のアマチュアでした。その頃ペギー葉山の南国土佐を後にして……が大ヒットした頃で、アマチュア出版界では四国ブームと言われてきました。その頃に四国の3人で大阪読売新聞に伺ったところ、文芸のページに半ページ大で四国の3人組現るで……特集を出してくれたい出が有ります。漫画でも結構四国は頑張りよりました。その頃が

楽しかった阿波踊り



私たちの一番売れた時代でした。プロの世界をチクトのぞいた……。アマチュア漫画屋だった……。岩本タケオ

6月17日（土）28人の参加で徳島方面の旅に出かけました。行き先は阿波十郎兵衛屋敷、阿波踊り会館、一番札所霊山寺、最後はドイツ会館でした。名ガイドの藤本眞事さんの案内で、行き帰りの地理や歴史も大変勉強になりました。

四ヶ所の訪問先はそれぞれ楽しく有意義な研修旅行になりました。中でも特に楽しく強く印象に残ったのは、阿波踊り会館でした。阿波踊りの本場の名演技を

たっぷり披露してもらいました。最後に私達も本場の踊り子達に割って入って、見よう見まねで一緒に阿波踊りに興じました。素晴らしいパフォーマンスを評価された四人が思いがけない表彰状を授与され、拍手喝采を受けました。予定より少し早く午後六時前に無事ふれあいセンターに帰りましたが、解散の時「面白かったね、来年も又参加したいね！」の声が異口同音に聞こえてきました。

マイ孫

私の初孫が、昨年の岩村ふれあい祭り当日に生まれました。女の子で体重は2896グラム、名前は歩乃佳と申します。外孫ですがよろしくお願いします。

岡崎純男

